

株式会社 オデッセイ コミュニケーションズ様

こんにちは、矢ヶ崎です。

私のホストファミリーは7人家族 (mom、dad、4sisters、1brother) で、驚いたことにみんな秀才です。また、一家でクロスカントリーと陸上をやっているのですが、同い年のsisterはアメリカで9番目に速い3,200メートル走者で、一つ年上のsisterもイリノイで2、3番くらいの実力のある陸上選手です。しかも彼女は、2010年の高校卒業後は『University of New Hampshire』のナース課に全額奨学金で行くことが決まっています。こうしたエリートな家庭にお世話になることになって、切磋琢磨しなければならない雰囲気があるため、“一人っ子の私には良い機会かな”と頑張って頑張っています。以下に、これまでのこちらでの生活を振り返った内容を簡単にご報告します。

ホストファミリーとは8月15日に初対面しました。このときは、Momと一番下の弟(Luke)と一番下の妹(Grace)しか来ていなかったのので、“二人兄弟なのかな?”と聞いていたのですが、家に向かう車内で5人兄弟だということを知り、とても驚きました。英語を聞き間違えたのかと思い、耳を疑いました。そして、外国に兄弟ができることに興奮すると同時に、それまでの私の生活(一人っ子)と真逆のような環境(5人兄弟)で、自分がやっていけるのかどうか少し不安でした。しかし、私が生活に慣れるまでは、同い年のsister(Kayla)がいつもサポートしてくれ、私が英語をうまく話せなくてイライラしていると、「That is ok. You have time.」と言って励ましてくれました。

学校が始まると、私の生活はそれまで経験したことがないくらい忙しくなりました。言葉のほとんど通じないところで転校生としてやっていくのは想像以上に大変で、校内ではしばしば迷子になりました。授業は、「数学」の優秀なクラスと、「化学」のちょっと優秀なクラス、「英語」と「歴史」(アメリカ史)の並なクラスと「音楽」のちょっと優秀なクラスを取りました。なかでも大変なのは「化学」で、専門用語が英語で表記されているので日本で一度勉強した内容でもまったく違うものに見えたり、先生の解き方に沿った回答が求められるのでとても難しいです。しかも、担当の先生は話すスピードがとても早く、最初の頃は何を言っているのかちんぷんかんぷんでした。ネイティブの生徒でさえ、「ときどき、先生の言っていることが聞き取れない」と言っていたので、その早さは相当なんだと思います。

秋になってからは、学校のテニスチームに入りテニス三昧の日々を過ごしました。私が日本でテニスをやっていたこともあって、コーチからNo.1シングルスを任せられたのですが、週に3回ある他校との試合では、いつも最も強い選手と試合することとなり本当に大変で

した。というのも、私は“練習は週4日間、たまに試合”という日本のペースに慣れていたので、アメリカ式の“週6日間の練習と怒濤の試合連発”と慣れない海外での生活に体力がついていかなかったのです。あるときなど、3時間半試合をした後の翌日に体調を崩して学校を休むほどでした。しかし、こうした大変なテニスのシーズンが終わってみると、私の周りにはたくさんの友達ができていました。

テニスシーズンが終わると、寒い冬がやってきました。イリノイの冬の寒さは想像を絶するものがあり、最低気温がマイナス20℃の世界では少し外に出ただけで鼻毛が凍ってしまうのです！ 冬は学校のバスケットボールのチームに入りました。私自身、バスケは体育の時間でしかやったことがなかったのですが、ほかのメンバーは7年くらいやっている生徒ばかりで大変なことも多々ありました。ある日の練習中、チームで一番体格のいい生徒と無理な体勢で衝突してしまい、すごく肩が痛かったのでMomに病院に連れて行ってもらおうと脱臼していました。治すのに一カ月ほどかかりましたが、治療期間中もトレーニングなどのできることを継続したところ、治ってからはすぐに練習に復帰できました。

それと、テニスの友達やsister (Elise や Kayla) から紹介された友達は優等生が多かったのですが、バスケチームに入ったことで違うタイプの友達を作ることもできました。MomやKaylaは、私がバスケの友達とつき合うことを少し心配していたようです。しかし、私はバスケがすごく好きになりましたし、しかもシーズンの終わりには、チームのなかで一番模範的だった選手に贈られる賞＝“Blue Pride Award”を学校からもらえ、とても誇りに思っています。

2010年に入り悲しいこともありました。12歳のsister (Grace) には親友 (Hope) がいたのですが、2009年の6月にHopeの脳に腫瘍が見つかり、先々週に彼女は亡くなりました。Hopeの体調が危機的になった1月と2月中、GraceはずっとHopeの入院する病院に泊まり込み、私のホストファミリーとHopeの家族は親戚のような仲なので、私たちも毎週Hopeのお見舞いに行っていました。先々週はHopeの死によってホストファミリーはボロボロといった感じでしたが、先週から少しずつ落ち着きを取り戻してきています。

一つの家には8人も人がいるといろんなこと起きます。最近、Track&Fieldのチームに入って毎日走っています。せわしなく動き回る毎日に、ときどき疲れを感じることもありますが、楽しく充実した毎日を送っています。

2010年3月

矢ヶ崎麻子

(留学先のアメリカより)